

学校 教育 目標	「みんながかがやくイマミっ子」 ～明るく かしこく たくましく～ ○ 進んで学ぶ子 【知】 自ら課題を見つけ、粘り強く解決していこうとする子を育てます。 ○ 自他を大切にする子 【徳】 自分も仲間も大切にし、自ら考え判断し、行動する子を育てます。 ○ 心身ともに健康な子 【体】 健康に関心を持ち、心身ともにたくましい子を育てます。 ○ まちと共に生きる子 【公】 地域や身近な人とのかかわりを大切にし、共に生きていく子を育てます。 ○ 未来を切り拓いていく子【開】 多様な価値観を認め合い、人とのコミュニケーションを大切にしながら、よりよい未来を目指す子を育てます。				
	学校概要	創立 42 周年	学校長 佐々木一高	副校長 足立 真弓	2 学期制 一般学級： 12 個別支援学級： 5 児童生徒数： 345 人 主な関係校： 今宿中学校 今宿小学校 都岡小学校

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	今宿中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<主体性・積極性> <問題発見・解決能力> <協働・コミュニケーション力>	今宿中学校 今宿小学校 今宿南小学校	自ら学び 人や社会とつながり よりよい未来をともに創る人 ・年間を通して、テーマである児童生徒が主体的に学習できる授業づくりを推進する。「主体的、探究的で深い学びの実現」に向けブロック内で授業研究、協議会を行う。 ・安心した学校生活が送れるよう「子ども会議」等を活用し情報の共有、取組を行う。

中期 取組 目標	○子ども一人ひとりの思いを大切に、安心して学べる環境を整えながら、主体的で対話的な学びを充実させます。 ・1年目は安心して自分の考えを発信し、学習課題を解決する楽しさを実感できる授業作りを推進します。 ・2年目は子どもの表現力を高めながら、自分も仲間も大切にし合う環境を整え、伝え合う力を育てます。 ・3年目は自ら進んで課題を見つけ粘り強く取組み、考えを伝え合うことで自分の考えを深めることができるようにします。 ○地域や身近な人とのかかわりを大切に、まちを大事にしていこうとする心を育てます。 ・3年間を通して自他ともに認め合うコミュニケーション力を高めながら、楽しく学校生活を過ごせるようにします。
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①ICT活用の可能性を推進しながら、子ども主体の学び方や振り返る力を高めていく。②算数科を中心に、研究テーマ「自ら学び、自ら考え、判断し行動する子どもの育成を目指して」のもと、主体的に考え表現できる子の育成に向けた授業づくりをすすめる。③スキルタイムを継続し、基礎・基本の定着をめざす。
担当	学力向上委員会	
徳	豊かな心	①集会や全校遠足等、様々な場面での縦割り活動を通して、自分と相手を大切にしようとする心を育む環境づくりをすすめる。②ニコニコタイム（スケッチタイム、校外における取組等）や読書タイムを活用し、感性を磨き、豊かな心を育み、自分づくりにつなげる。
担当	豊かな心育成委員会	
体	健やかな体	①児童の委員会（運動、給食、保健）の取組を通して、児童自身が主体的に健康についての意識を高められるようにする。②体育朝会やキラキラタイム（休み時間の縄跳び等）といった運動に親しむ機会を設け、継続的に体力づくりに取り組む。
担当	体力向上委員会	
公 開	まちと共に	①学校運営協議会や学校関係者向け授業参観、学校だよりを通して、学校の様子を定期的に発信し、関わりを深める。②地域への愛着をもてるように、家庭と連携・協力しながら子どもの地域行事参加・つながりをすすめる。
担当	地域交流	
いじめへの対応		①いじめ防止対策委員会を定期開催し、組織的にいじめの未然防止、早期発見・対応、再発防止に努める。②「子ども会議」による児童主体の取組を推進する。③児童アンケートや保護者との日常的なコミュニケーションを行い、いじめに対する教職員のアンテナを高くし、小さな変化を見逃さない体制づくりをすすめる。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①経験の浅い教職員に対して経験値ある職員の支援を受けやすい体制や風土づくりをすすめ、授業力向上等につなげる。②子どもと笑顔で向き合う教職員の心のゆとりを生むよう働き方（会議・資料の効率化、業務効率等）を見つめ直す。③教科や単元での交換授業、T.T等を意図的に取り入れた柔軟な組織運営をすすめる。
担当	教務部	
特別支援教育		①子どもの困り感や個別最適な学びに寄り添えよう、児童理解研修や特別支援教育研修にて理解を深める。②個別支援学級と一般学級の連携強化に向け、特別支援教育コーディネーターが中心となり、個別支援学級の授業を参観する機会を設けたり、児童理解や交流に対する考え方やUD化を共有したりする。
担当	教育活動部 特別支援教育	
担当		